

令和4年台風第14号と 台風を要因とする特別警報について

福岡管区気象台

台風を要因とする特別警報 現象の対象と指標

数十年に一度の強度で台風の中心が接近・上陸

■ 対象

暴風



波浪



高潮



■ 指標

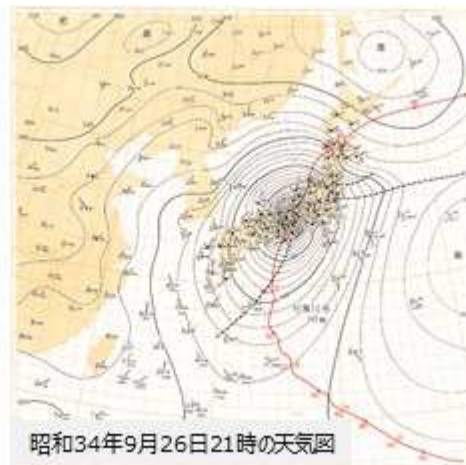
「伊勢湾台風」級

中心気圧930hPa以下または最大風速50メートル以上

沖縄地方、奄美地方および小笠原諸島については、中心気圧910hPa以下または最大風速60メートル以上



写真：名古屋地方気象台所蔵



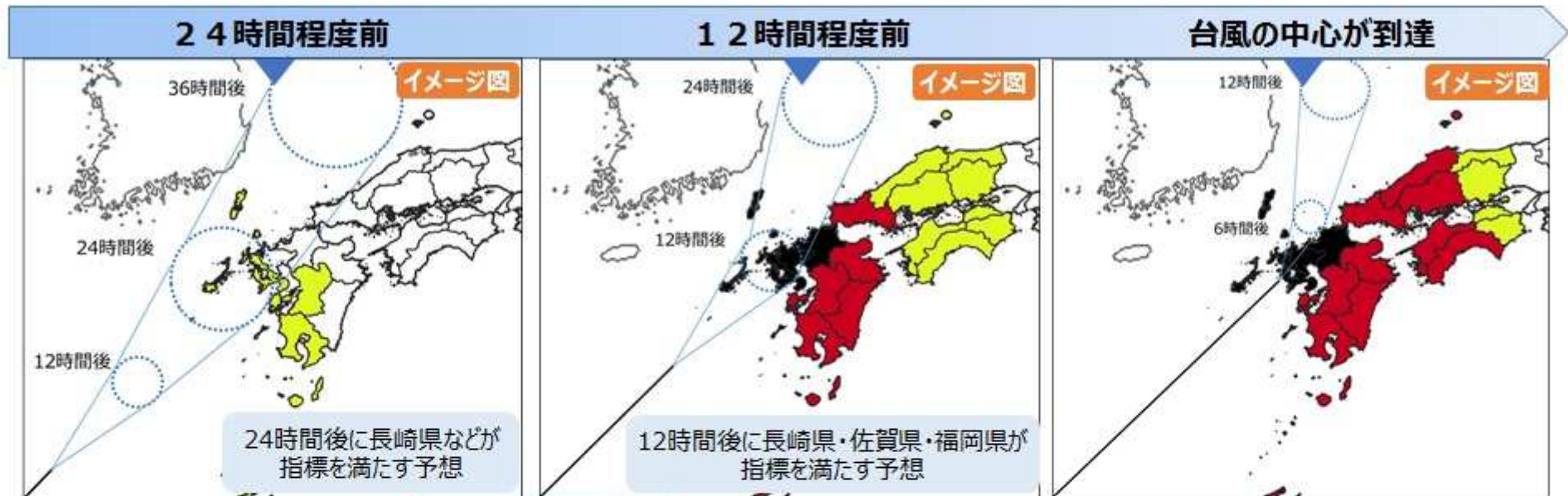
昭和34年9月26日21時の天気図

昭和34年9月26日18時頃
和歌山県潮岬の西に上陸

伊勢湾で大きな高潮が発生
この高潮等によって全国で
死者 4,697名
行方不明 401名
の甚大な人的被害が発生

台風を要因とする特別警報 発表のタイミング

- 台風の中心が到達する 24時間程度前・・・特別警報を「予告」
12時間程度前・・・特別警報を「発表」



特別警報を「予告」



記者会見

気象情報

特別警報を「発表」



記者会見

気象情報

令和4年台風第14号について

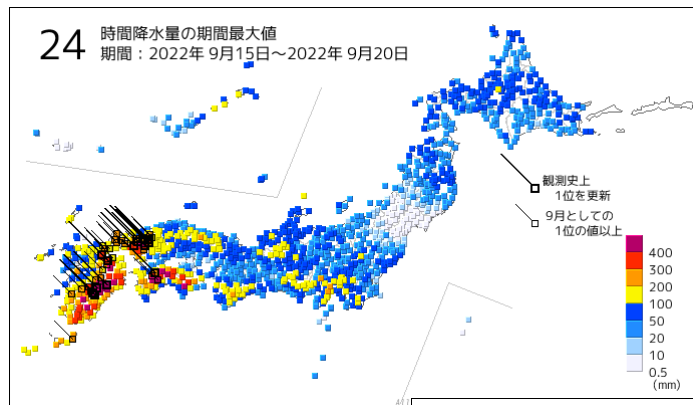
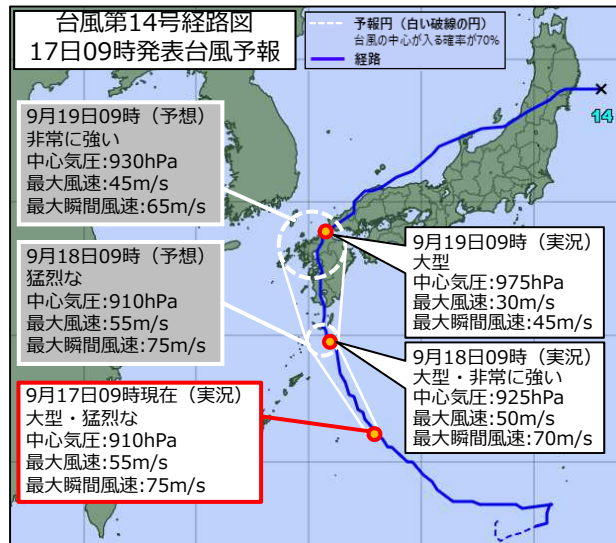
【気象の状況】

- 9月14日03時に小笠原近海で発生した台風第14号は、18日19時頃に中心気圧935hPa、非常に強い勢力で鹿児島市付近に上陸し、19日朝にかけて九州を縦断。その後進路を東よりに変え、20日09時に日本の東で温帯低気圧に変わった。
- 気象庁では、17日午前の段階で、台風の統計開始（1951年（昭和26年））以来あまり例のない強さで上陸する可能性があったことから、「経験したことのないような暴風、高波、高潮、記録的な大雨のおそれ」があると呼び掛けた。

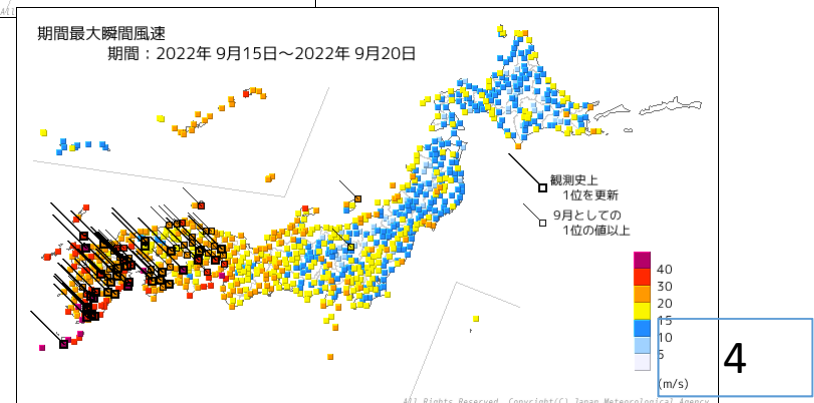
◆ 台風第14号による大雨や暴風の状況

◆ 台風第14号の予報と実際の進路

- 予報円の東寄りのコース（陸上）を進んだことにより、上陸後の台風の強さは予想より弱い勢力となった。



- 台風第14号により、九州を中心に西日本で記録的な大雨や暴風となった。
- 24時間降水量の観測史上1位を13地点で更新したが、1時間降水量の観測史上1位を更新した地点はなかった。
- また、最大瞬間風速の観測史上1位を35地点で更新した。

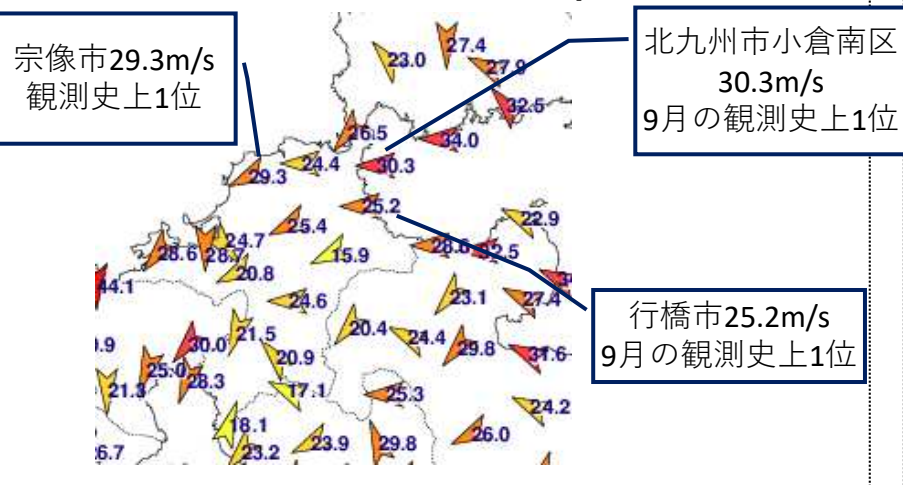


◆台風の進路



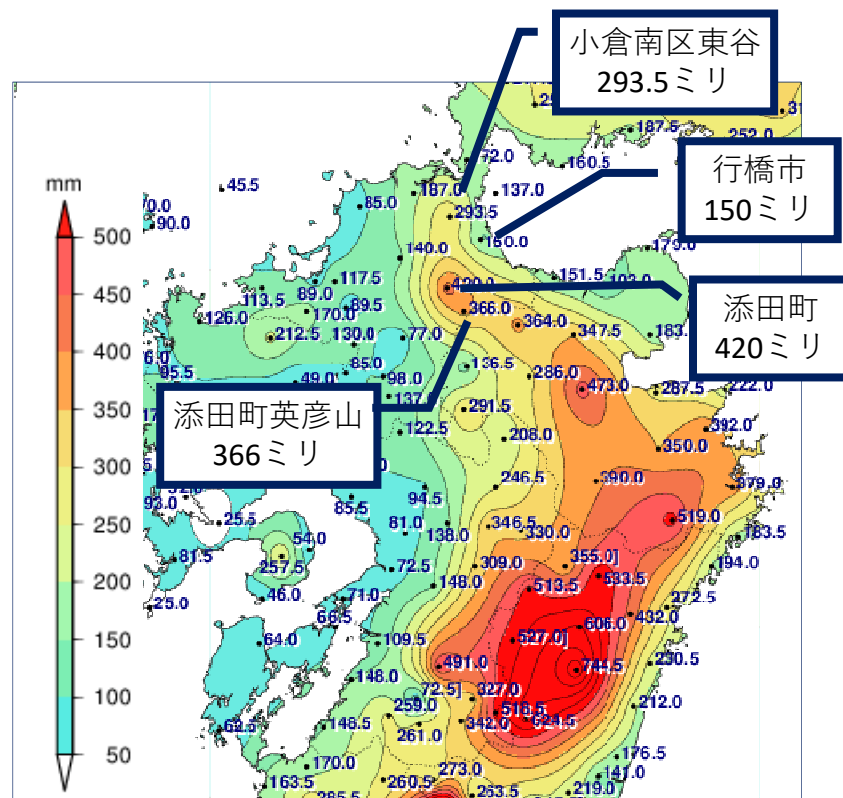
最接近
9/19日 朝

◆風の状況 (最大瞬間風速)



◆大雨の状況

○18日0時から19日24時までの総降水量
※アメダス添田では18日の日降水量が9月の観測史上1位を記録 (347.0ミリ)



台風の構造の変化 (海面気圧)

